



ハッピーテラス通信

令和6年2月号

ハッピーテラスキッズ柏ルーム

04-7193-8205

1 職員からの推薦図書

題名 せつぶんのひのおにっか
 著者名 青山友美
 参考価格 1650円 (Amazon)
 推薦者 宮下丈 (柏II教室)



おにファミリーに、悲劇の日がやってくる!?ふだんはのんきにくらしている、おにの家族。でも、きょうは節分。どうする?どうなる!?おに一家。親子で楽しめる、季節と行事のよみきかせ絵本です。

2 2月の追加ご利用可能日程

(記号：○・・・空きがございます △・・・若干名の空きがございます)

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
10:00				X							X				
11:15				X							X				
13:00				X							X				
14:45				X							X				
16:00				X							X				

日付	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
10:00			X					X		X				X
11:15			X					X		X				X
13:00			X					X		X				X
14:45			X					X		X				X
16:00			X					X		X				X

3 療育コラム 「遊びと子どもの発達③」

今回も、前回、前々回に引き続き、遊びと子どもの発達を題材にお話をしていきたいと思います。

前回は、大人の常識や固定観念が、時に子どもたちの自由な発想からの発達の妨げになり得る場面がある事についてお話をしました。今回は【遊びの内容と変遷】に焦点を当てつつ、どのような支援が効果的かについて考えていきたいと思います。

早速ですが、皆様は小学生の頃、どのような事をして遊んでいたのでしょうか？

私は、山や公園の中での秘密基地作り、戦いごっこ、自転車競争、丸太鬼ごっこ、スーパーファミコン、カードゲームなど、外で遊ぶにも家の中でする遊びにも満遍なく取り組んでいました。研修会の場でも、同年代から少し下の世代の指導員数名とお互いのしていた遊びを振り返っていますが、おままごとや人形遊びなど、男女の違いに伴う差異こそ窺われているものの、公園や児童館などでの外遊びや先に挙げた内容での室内遊びに満遍なく取り組んでいる、という点に関しては概ね共通の認識でした。

では、現在の子供達はどのような事をして遊んでいるのでしょうか？

真っ先に挙げたのはゲーム、タブレット端末を用いた動画視聴など、電子機器を用いた室内遊びでした。中でもゲームは友達や兄弟などと同じ場所を共有してですらなく、オンライン上で待ち合わせをして、文字を打ち込んでやり取りをして、などが至極当然の選択肢として挙がっている、という事実に参加者一同、驚愕したのを覚えています。

勿論、外遊びを好んで毎日門限ギリギリまで泥だらけになって遊んだり、ゲームや電子機器などに一切触れる事無く遊んでいる子供達も一定存在していますが、私達親世代が子どもだった時分と比較して少数派なのはデータを見るまでもなく明らかである事は理解に容易い事と思われます。

これについて、技術の発展に伴う遊びの変遷と言われてしまえばそれまでなのですが、講師の先生のお話によると、この変遷は技術の発展のみが原因、というわけでもないようです。

私も休日などによく見かけるのですが、公園に数名集まっている子供達、その手元には携帯ゲーム機、という光景。

『きっと家でゲームができる時間が終わってしまい、親の目を避けるために外で遊んでいるのかな？』など推測していたのですが、どうやら違うようです。

とあるテレビ番組でそういった子供達に「何で家じゃなくて公園でゲームしてるの？」とインタビューをしたところ、こう返って来たそうです。

「大人が俺達にゲームさせてるんだよ。だって、この公園、遊ぶ物も無いし、やっちゃいけない事がいっぱい、ゲームくらいしかできる事が無いんだもん…」

いやいや、遊具が無くても流石に何かしらやれる事はあるでしょう。

大人からすると、そうかもしれないし、それこそ鬼ごっこか、かけっこ、かくれんぼとか物を使わずに遊ぶ方法は、事実あると思われま

すが、この子供の発言の中には決して無視できない点が2点あると思います。

まず1つ目は【公園に遊ぶ物が無い】という点です。これは実際に地域の小規模な公園を覗いてみればすぐに理解できるように思います。

全ての公園がそうとまでは言いませんが、多くの公園から遊具が最低限の物（概ね滑り台とブランコ）を除いて姿を消しています。これによって、明らかに子供達の遊びの選択肢が意図的に制限されているのです。

続いて2つ目は【やっちゃいけない事がいっぱい】という点です。これは言い換えると【禁止事項が多い】ということになります。遊具が減ってスペースの空いた公園では、サッカーやキャッチボール、バドミントンにフリスビーなど道具を介した遊びをするには適している、ように思われるかもしれませんが、しかし、それらの悉くが地域の小規模の公園の多くではルールで禁止されているそうです。

如何にスペースがあるとは言え、公園を飛び出したボールが近隣にお住いの方々のお宅に入り込んだり自家用車にぶつかったり、などそういった事例が積み重なった結果、ルールとして禁止になったそうです。研修会で講師の先生に見せていただいた特にルールの厳しい公園の禁止事項の看板には、これらの内容に加えて【キャーキャーさわがない】という旨の項目がありました。

私もいい歳の大人なので意図は理解できますが、ワーキャー言わずに淡々と遊ぶのは果たして楽しいのでしょうか…

このような背景状況を知った上で、先ほどの子供の返答について、子供の側から考えてみると、直接的ではないにせよ大人が選択肢を奪った結果、ゲームという選択肢に辿り着き、それをしている、という言い分は無視できないように感じます。

ですが、前回のお話と同様【守るべきルールが無い】というのも違うし、内容でも多少触れてきた通り、そもそもルールを示していなかった事で、危険行為や迷惑行為などが蔓延した結果、理不尽なまでのルールが追加された、という背景があります。

そのため、ただ単に全面的に禁止するのではなく、代替案を示しながらやりたい事と禁止事項、その境目を大人が子どもと一緒に考えていく機会を持つことが重要であるように感じます。

それによって、本当に危険な事と、チャレンジしても良い危険の仕分けを行った経験は、子供達の発達、更には大人になった時の次の世代との関わり方にも大きな意味を持つようにも思います。

いかがでしたでしょうか？

今回で、遊びと子供達の発達との関係性についてのお話は終了となります。

それでは、また次回のコラムでお会いしましょう。